

グリーン・トピックス

北海道立林業試験場

No.18

ブナの結実予測



ブナ林は道南地方を代表する天然林ですが、その資源量の減少が心配されています。ブナをすみやかに再生させるために、ブナ林の伐採後には、天然木を種木として残し、稚樹の育成を阻害するササなどの植生をブルドーザーで取り除いています。ブナを確実に更新させるためには、この作業をタネの豊作年にあわせて実施することが重要です。ところがブナのタネは豊凶の差が著しく、しかもいつ豊作年がくるのかわかりません。そこで林業試験場では、タネの豊凶を予測する研究を進めてきました。その結果、1年先の豊凶が予測可能なことがわかってきました。予測する方法は、春と秋の2回ブナの枝を採取し、冬芽に雌花が入っている割合を調べるといった簡単なものです。この方法によって、1997年の道南地方のブナ林の結実予測を行ったところ、7ヶ所中4ヶ所で豊凶が的中していました。さらに、予測の精度を上げるには、枝を採取する位置を高くすればよいこともわかりました。今後この予測方法が確かなものになれば、ブナ林の再生がより確実に進められるでしょう。

(道南支場)

1997年の道南地方のブナの結実予測とその当否

調査地	予測	実際	予測の当否
恵山町	並作	並作	○
恵山町	並作	並作	○
上ノ国町	豊作	豊作	○
北桜山町	豊作	豊作	□
函館市	並作	豊作	×
黒松内町	並作	豊作	×
乙部町	凶作	豊作	×

1㎡当たりの充実堅果の生産数が200個を越えると豊作、50個以上200個未満は並作、50個未満だと凶作